

薬剂摘果研究開始から30年

わが国で果樹の薬剂摘果の研究が始ってから、約30年になろうとしている。その間、りんご・もも・かき・温州みかんなどで、その技術が普及にうつされたが、残念ながらいずれの場合も程度の相違はあるが、その普及は遅々としているといえる。その原因は、この技術に宿命的ともいえる“効果の不安性”によるものであるが、この点も研究の進展によって、周到な注意のもとに行なえば、かなり安全になったというもののか農家に「食わず嫌い」的に敬遠されている傾向があることもいえない事実である。

摘果は、果樹栽培では種類によってその程度は異なるが「品質の向上」と「隔年結果防止」のためには、必須の作業とされている剪定あるいはそれ以上に重要な作業であり、しかも多労的で農繁期を作る作業であるから、薬剂摘果の導入によるその省力化は、除草剤の利用などとは比べものにならない重要性をもつものである。したがって、今後の農村をとりまく状況を考えると、この技術の重要性はますます増加こそすれ、減ずるものでないといえよう。

ところで、この技術の今後の進め方は、新しい摘果剤の開発や、よりキメの細かい研究によって、より安定した技術とすることの必要性はいうまでもないが、すでに述べたようにこの種の技術にはある程度の不安定性はさけ難いものであるから、指導当局・行政当局によるより「あの手」「この手」による「食わず嫌い」をやめさせることをふくめて「キメの細かい」普及への努力が必要であると思う。

(全国農業協同組合連合会技術参与 森 英男)

目 次

(第9巻第3号)

アメリカの野菜用奨励除草剤(1) …	2
＜野菜試験場育種部長 西貞夫＞	
1. はじめに ……	2
2. アメリカと日本の野菜用除草剤の違い ……	2
3. アメリカの野菜用除草剤 ……	3
・表1. アメリカの野菜用除草剤の使用基準 ……	4
昭和49年度水稻関係除草剤委託試験成績中央判定結果の一部改訂 ……	12
＜財団法人日本植物調節剤研究協会＞	
1. 審査薬剤 ……	12
2. 審査結果 ……	12
除草剤使用面積一覧表 ……	20
＜財団法人日本植物調節剤研究協会＞	
新登録除草剤一覧表 ……	25
(昭和50年3月1日～5月31日)	
＜農林省農蚕園芸局植物防疫課＞	
新除草・調節剤	
・ベンタゾン除草剤 ……	31
・2,4 P A・ベンタゾン除草剤 ……	32
・M C P・ベンタゾン除草剤 ……	32
・ベンチオカーブ・シメトリン・ベンタゾン除草剤 ……	34
植調協会だより ……	35